

第1回 常滑市立図書館基本構想策定委員会 議事要旨

日 時：令和7年6月20日（金）

14時00分～16時00分

場 所：常滑市役所1階 会議室A・B

1 開 会

(1) 挨拶

- ・常滑市長より挨拶

(2) 基本構想策定委員会について

- ・事務局より、資料1に基づき策定委員会の趣旨を説明
- ・委員長は、策定委員会設置要綱第5条第2項の規定により副市長とする

(3) 委員紹介

- ・資料2に基づき自己紹介方式にて実施
- ・現在開催している図書館市民ワークショップより、参加者の代表として2名の方に委員をお願いする（第1回は欠席）。

2 議 事

(1) 副委員長の任命について

- ・策定委員会設置要綱第5条第3項の規定により、委員長から副委員長を指名
- ・出席委員全員の承認により、副委員長に教育長の土方宗広委員を選出

(2) 策定委員会の進め方について

（事務局）

- ・資料4に基づき、策定委員会の開催回数・日時及び計画策定までのスケジュールを確認

【2 策定委員会の開催予定】

（豊田雄二郎 委員）

- ・スケジュールの中で、第4回が基本構想（素案）の最終調整、第5回でいきなり素案の確定とあるが、一段階足りないのではないかと思うがいかがか。第4回までのどこで素案が出てくるのか。
- ・第4回と第5回の間で、市議会に骨子を示すと冒頭説明があったので、第4回では骨子の案が出てくるとばかり思った。スケジュールとして拙速ではないか。

（事務局）

- ・3回目までに議論した内容で骨子の案が作れればと考えている。年度内に基本構想を策定する場合のスケジュール（案）のため、場合によっては追加ということもあり得る。

（豊田雄二郎 委員）

- ・計画策定の期限を決めて、それまでの間に何とかやっけてしまおうというのでは、まさに公共施設で問題が生じているほかの自治体と同じになってしまう。また次回までに考えていただきたい。

（山田朝夫 委員長）

- ・ワークショップと並行して、事務局もまさに火の車で進めている。場合によっては、策定委員会も第6回・第7回となることもあるので、その際は協力いただきたい。

（3）前提条件の整理について

① 第1章 基本構想策定の趣旨

（事務局）

- ・資料5に基づき、基本構想策定の趣旨と背景、基本構想の位置付け、常滑市の諸計画との関係について説明

【1 基本構想策定の趣旨と経緯】

（土方宗広 副委員長）

- ・図表1-1「図書館のあり方の変化」の中で図書館法上の図書館から脱却とあるが、何かメリットがあるのか。

（中井孝幸 委員）

- ・図書館法上の図書館ではできないサービスという意味だと考えられる。静岡県磐田市には、「ひと・ほんの庭 にこっと」という施設がある。古い図書館を改装してそのまま子育て支援施設としているが、図書館部分が多い。そこには図書館職員のほかに保健師や市内にブラジル出身の方が多いので通訳の方がおり、みんなが貸出業務を行っているが、図書館でないからこそできる、良いサービスだと思う。
- ・図書館は無料が原則だが、有料の会員制のところもある。

（山田朝夫 委員長）

- ・図書館法の図書館ではできないサービスについて、また事務局で調査研究が進めば教えていただきたい。

【3 諸計画との関係】

(井村美里 委員)

- ・配布された常滑市総合計画の概要版の中では、どこに該当するか。

(事務局)

- ・図書館に関しては、基本目標2「創造性や豊かな心を育むまち」の実現のための施策2-2「図書館事業の充実を図り、市民の知的好奇心を満たせる環境を整えるとともに、生涯学習施設・文化施設のあり方の検討を進める方針」が該当する。

(豊田雄二郎 委員)

- ・先ほどの諸計画との関係では、公共施設マネジメントの推進について説明があったが、違うのか。

(事務局)

- ・総合計画の中では、文化会館や公民館との複合化となっており、下位の行動計画である「公共施設アクションプラン」において単独で整備する方針となったことを説明したかったため、基本目標7「みんなで創る、持続可能なまち」を実現するための施策7-4「行財政運営」を記載したが、諸計画との関係と経緯が分かりづらいため、次回までに整理して修正する。

(山田朝夫 委員長)

- ・説明の中で、学校図書館の話が出たが、総合計画の中では、「図書館の充実」に入るのか、「学校教育の充実」のどちらに入るのか。

(中井孝幸 委員)

- ・今回、基本構想をまとめるにあたっては、公共図書館と学校図書館を分けて考える必要はないと考えている。
- ・過去に安城市のアンフォーレが開館した際に、市内の小中学校を対象にアンケート調査をさせてもらったが、例えば、アクセスの関係もあり、公共図書館から遠い中学校ほど学校図書館の利用が高いなど相関関係がある。
- ・公共図書館だけ整備したら終わりというわけではなく、子供たちの学びの環境をどう整理していくかも考えながら、連携した良い施設を考えていただきたい。

(豊田雄二郎 委員)

- ・それでは、既存の図書館の中には、学校図書館も含まれると解釈してよいのか。

(事務局)

- ・学校図書館も含めた図書館のあり方を考えていく。

② 第2章 第1節 市の現状

(事務局)

- ・資料5に基づき、常滑市の現状について、地勢、交通、人口分布・人口推移、地域間流動の状況を説明

【3 人口分布・人口推移】

(1)人口分布

(中井孝幸 委員)

- ・人口分布は 500 メートルメッシュか。スケールを書いた方が分かりやすい。

(事務局)

- ・500 メートルメッシュであることがわかるよう修正して記載する。

(4)地域間流動

(豊田雄二郎 委員)

- ・資料の中で、昼間人口が多いとあったが、通勤者の中に中部国際空港で働く方は入っているのか。資料を分析する上で、空港の従事者が多いことを考慮する必要があると思うがどれくらいいるのか。

(山田朝夫 委員長)

- ・コロナ前ではあるが、8千から1万人近くの方が空港で働いており、そのうちの多くは市外からの流入者であると記憶している。

(事務局)

- ・正確な数値がすぐにわからないが、委員のご意見のとおりだと考えるので、次回までに資料を修正する。

③ 第2章 第2節 図書館の経緯

(事務局)

- ・資料5に基づき、常滑市の図書館について、開館からの変遷・沿革、分散移転までの経緯を説明

④ 第2章 第3節 図書館の現状

(事務局)

- ・資料5に基づき、常滑市の図書館について、施設の概要、施設の管理運営、図書資料の蔵書構成、蔵書冊数の推移、資料費と年間購入冊数の推移、図書館の利用者数と貸出冊数の推移、利用者の年齢及び地区

構成を説明

【3 図書資料】

(4) 資料費と年間購入冊数の推移

(山際史子 委員)

- ・経費の説明の中で、資料費は1千万円と説明があり、推移のグラフでは800万円前後で推移しており、乖離があると説明があった点について詳しくお願いしたい。

(事務局)

- ・800万円には、図書や視聴覚資料以外の新聞や雑誌の購入にかかる費用が入っていないため、それらを合計すると1千万円となる。

【4 図書館の利用状況】

(1) 利用者数と貸出冊数の推移

(中井孝幸 委員)

- ・貸出密度という指標があり、資料から常滑市では4.8冊ということがわかる。全国平均が5.5冊ではあるが、滞在型図書館や問題解決型図書館も増えてきて単純に貸出密度だけでサービスを押し量れないが、6万人規模の市で熱心に活動されている図書館では10冊くらいであるので、基本構想の中での目標を検討してほしい。

(井村美里 委員)

- ・同じく関連して、説明の中ではこども図書室を整備したりなど増えた理由を挙げていたと思うが、今後、新しく整備すること以外にどういう要素が増えたら、貸出冊数が増えるのかということも議論していけたらと思う。

(山際史子 委員)

- ・新しい本の方が、動きが良いと思う。青海や南陵ではまだまだ古い本がそのまま並んでいる。

(山田朝夫 委員長)

- ・図表2-22は一般書と児童書という区分ではあるが、旧本館を閉じてから、青海・南陵の図書館がどうなったか、事務局でわかるか。

(事務局)

- ・青海・南陵それぞれで見ると、旧本館の閉館前に比べて、利用者数と貸出冊数ともに増えているが、両者を足しても、旧本館があった頃と比べると全体の合計では下がっている。
- ・常滑地区の利用者は大きくは変わっていない。
- ・これは、旧本館の閉館により、利用層が変わったためと考えており、一般書がなくなったため、大人の方は図書館に行きづらくなったが、こども図書室ができたことで、これまで図書館を利用していなかった子育て世代の利用が増えたことが要因である。

(豊田雄二郎 委員)

- ・令和5年の5万8千人というのは延べ人数だと思うが、実人数はわかるのか。

(事務局)

- ・統計を取っており、お手持ちの図書館年報の12頁を見ていただくと、利用登録者数の表があり、令和5年度は5,257人となる。

(豊田雄二郎 委員)

- ・人口の10人に一人が図書館を利用しており、単純に平均を考えるとそれぞれが10冊借りていると理解した。

【4 図書館の利用状況】

(2) 利用者の年齢構成

(土方宗広 副委員長)

- ・年齢の構成というのは、10年後・20年後に変わらないのか。常滑市の年齢構成では、30代・40代に山があり、この年代の方が40代・50代になったときに本を借りる割合はどうなっていくと捉えて、今後の予測をしたらよいのか。

(中井孝幸 委員)

- ・今、20代・30代の子育て世代の方が図書館を多く利用していると思うが、その方々が40代・50代になった時に、全員が使うかというとそうではなく、少しずつ利用率が下がって行って、代わりに次の子育て世代が図書館を使うようになって考えられる。そのため、年齢構成は多きくは変わらないと考えてよいと思う。
- ・男性、女性で見ると図書館で本を借りるのは圧倒的に女性が多く、男性は図書館で本を読む傾向がある。
- ・滞在型の図書館を希望するのは男性が多く、定年後の居場所を求めている。ただ来館者が増えれば、必然的に本を借りる確率が増えるので、まずは図書館に来てくれる方を増やすことも大切ではある。
- ・小学生までは図書館で本を借りる子が非常に多い。しかし中学生・高校生になるにつれて図書館で本を借りなくなってしまう。
- ・その結果、それまで子供と一緒に図書館に来ていたお母さんも図書館から足が遠のいてしまい、借りなくなっていくので、利用率は下がってしまう。

⑤ 第2章 第4節 同規模自治体との比較

(事務局)

- ・資料5別紙に基づき、貸出冊数や利用者数、図書館の規模などについて同規模自治体の例を説明

(中井孝幸 委員)

- ・「望ましい基準」というのが耳慣れない言葉だと思うので補足する。
- ・人口が同規模の自治体を集めて、貸出密度順に並べ、上位 10%の自治体の平均値を出したもので、指標としてはかなり高い。
- ・自治体により、面積や産業構造、財政状況などの事情があるとは思いますが、上位のため、目標とするには良い指標ではある。

(山田朝夫 委員長)

- ・旧本館と現有の図書館を足した面積はどのくらいになるのか。

(事務局)

- ・旧本館が 1,447 平方メートル、青海・南陵・こども図書室を足しても 1,300 平方メートル程度のため、全部足しても 3,000 平方メートルには届かない。

(中井孝幸 委員)

- ・個人的には、整備する場合は、中央図書館の位置付けであれば、平屋建てで 2,500 平方メートルあると良いかなと思う。

⑥ 第2章 第5節 学校図書館の現状

(事務局)

- ・資料5に基づき、常滑市の学校図書館の現状について、小中学校の蔵書冊数、管理運営の体制などについて説明

(中井明子 委員)

- ・常滑中学校は学級数が増えているので蔵書数が足りていない。
- ・司書教諭は担任も兼ねていることが多く、専門性が高いうえに時間も限られてしまうと、選定や配架、蔵書管理に時間がかけられないのが現状である。
- ・異動があるとこれまでの経験がしっかり引き継がれないという課題もある。また小規模の学校では司書教諭が1人であったり、大きな学校で複数の司書教諭がいても、その中でしっかりと共通理解が図られていないなども耳にしている。

(平野小月 委員)

- ・読み聞かせの時間を使って、保護者ボランティアや地域ボランティアで学校に伺うことがあるが、本が上下さかさまに並んだままであったり、休み時間の短い時間に大勢の子供たちが図書館に来るところを見ると、学校図書館の管理がとても大変だと強く感じる。

(中井孝幸 委員)

- ・建築が専門ではあるが、現在、学校図書館の研究をしている、その中で学校司書の存在が非常に大きいと感じている。

- ・本を借りる場所であるが、居場所としても利用していることを考えると「第三の居場所」という意味でも、学校司書がいて、図書館が常にかいており、そこで過ごすことができることが大切である。
- ・市全体のことであると思うが、全国でも複数人以上の学校司書を配置している自治体はあるので、ぜひ検討してほしい。

(土方宗広 副委員長)

- ・法律によると、12 学級以上は司書教諭を必ず配置しなければならないが、11 学級を下回るとそうではないため、教員の定期の人事異動の中で、学校に司書教諭の資格をもった教員が配置されなくなる恐れがあることも頭においていただきたい。ただし、学校図書館に配置するのは必ずしも司書教諭でなければならないわけではない。

⑦ 第2章 第6節 ニーズの把握

(事務局)

- ・資料6に基づき、令和6年度に実施した利用者アンケート調査について説明

【1 利用者アンケート調査】

(豊田雄二郎 委員)

- ・アンケートはどのように行われたのか。市側からアンケートに答えてくださいという形なのか、市民側からのアクセスしてきたのか。

(事務局)

- ・青海・南陵の利用者アンケートについては、施設での紙ベースで実施しており、図書館非利用者についてはオンラインでの回答、市民アンケートについては、オンラインと紙ベースでの回答となる。広報や市のSNSでも告知したので、そういったものを見て回答した方もいると思う。

3 その他

(1) 第1回図書館ワークショップについて

(事務局)

- ・第1回及び第2回ワークショップの資料をもとに当日のグループワークでの意見を紹介

(井村美里 委員)

- ・市民ワークショップの統括ファシリテータをしていて感じることをお話させていただく。まず市民の方の関心が非常に高く、こちらも熱

気を感じながらやっている。

- ・事前の課題や資料に目を通すのも大変だと思うが、振り返りシートも含めて、たくさん意見をいただいている。
- ・自分の意見を言うだけのワークショップが多い中で、今回の図書館市民ワークショップは、他の人はどう思っているんだろうとメンバーの意見を聞いたうえで、自分の意見を発信するという流れで進めているので、非常に難しいと思う。
- ・公共施設の整備となると、ワークショップの中でもただ反対の声が響いているだけのことも多いが、そうではなくて、非常に民意の高いワークショップとなっているので、メンバーのみなさんの意見を反映させたいし、委員としていただいた思いを伝えたい。

(2) 出席委員の感想

(山田朝夫 委員長)

- ・本日予定していた内容は以上だが、せっくなので委員の方からそれぞれ感想などいただければ。

(中井孝幸 委員)

- ・新しく整備する図書館の計画だけでなく、今ある施設をどうするかも含めて常滑市全体で図書館サービスを考えていくことが基本構想の中で一番大切だと思う。
- ・一つ参考になるのが、合併してできた滋賀県東近江市の事例。図書館が7館ある中で、みんなが同じ資料をもっていては仕方ないと考え、ある図書館は視聴覚資料を充実させ、病院の近くにある図書館は医療や薬に関する資料を増やそうなど、それぞれ蔵書に特徴を持たせている。そのため、地域全体でそれぞれの地区の人が別の地区の図書館へと動いている。
- ・今回の資料でもわかるが、自分の地区の図書館の利用が多い中で、みんなが動いて、色々なところに行くというのもおもしろい。
- ・学校図書館も含めて地域全体で考えていくことが大切だなと改めて感じた。

(豊田雄二郎 委員)

- ・地方自治や地方行政の取材をしており、例えば最近では豊橋市のアリーナ問題など、市民の意見が分かれるようなことが起きている自治体というのは、多くの場合、市民の理解や合意が進んでいないのにも関わらず、役所側が拙速に議論を進めたりすることにあると思う。
- ・常滑市から図書館がなくなった時に大きな反響があったのもまさに、拙速に進めた結果だと考えている。

- ・市民ワークショップも見学させてもらっているが、非常に高い議論が進んでいる。例えばケーブルテレビを使って、今日はこんな意見があったなど放送するなどして、市民の代表者として参加してもらっているメンバーの方がこんなに真剣に議論しているというのを、一般の市民の方にも発信するのが大事だと感じた。

(井村美里 委員)

- ・ワークショップの中で意外だったのが、メンバーのみなさんから、本の貸出しなどといった図書館本来のサービス以外の意見も多く出ていた点である。
- ・例えば、学習室一つとっても「図書館だと19時、17時半までだけど、公民館にあるからもうちょっと遅く使える」という意見もあった。図書館の中にある学習室とは違う形の学習室に対する声を聞くと、ひょっとしたら図書館の中に学習室がなくてもいいのではないかなと思えたりもして、メンバーの声はとても参考になる。

(山際史子 委員)

- ・今の図書館でどう全体のサービスを考えていくのか、課題解決のためにどうやって地域の中に出ていけるのか、PRしていくためにはどうしたらよいのかなど本当に考えさせられた。
- ・居場所や学習室、学校図書館の問題も含めて、課題はたくさんあると思うが、委員のみなさんと力を合わせて考えていきたい。

(平野小月 委員)

- ・新しく整備するということは非常にメリットが大きいと思う。
- ・もちろん、綺麗だ、新しいというだけでも人は増えるとは思いますが、ワークショップを見学していて、実際の市民の方々の声として出ているような、本当に必要とされる図書館ができたらいいなと、改めて感じた。

(中井明子 委員)

- ・子育て世代の10年後の話があったので、同時に今の小・中学生は10年後には、どれくらいが図書館に通っているのかと考えさせられた。
- ・公共図書館と学校図書館は区別せずに関わりあっているという話や、学校図書館や3つの図書館、その他の公共施設も密接に関係しているという話があった。学校の現場では、学校の図書館というイメージが強いので、学校図書館の充実が、子供たちの読書週間や生涯にわたる図書館の利用に繋がっていくということを、改めて働きかけていきたい。

(土方宗広 副委員長)

- ・ 2回のワークショップに参加して、できるだけ会場を歩いて回るようにした。従来の図書館のサービス以外についての意見もたくさん出ており、その中で気になる意見を出している参加者を見つけて思わず写真を撮ってしまった。その参加者の付箋には、「便利すぎると図書館に用がない人たちのたまり場になる」と書いてあり驚いた。
- ・ 必要とするサービスをすべて込めたものとするのは難しいのかもしれないが、市民の方々の理解を踏まえた場所にしなければならないという重い使命を策定委員会は担っているので、2回目以降もしっかりと務めていきたい。

4 閉 会

- ・ 次回の委員会は9月25日（木）午後2時開催
- ・ 会場は、常滑市役所1階 会議室Bの予定